

地域情報

(一社)熊本県野菜振興協会玉名支部

地域全体で技術力アップ！県育成いちご品種「ゆうべに」講習会の開催

県内有数のいちご産地である玉名地域では、2015年に誕生した県育成いちご品種「ゆうべに」が県下に先駆けて導入され、平成30年産では、管内いちご栽培面積の7割超を占める約40haで栽培されています。

「ゆうべに」は、既存品種に比べて、大玉で収量性が高く、いちごの需要が最も高まる年内の収量が特に多いなどの優れた品種特性により、いちご農家の収益性向上とブランド産地の発展につながっています。

一方で、成り疲れによる厳寒期の草勢低下や、着色不良果の発生が生産上の問題となっています。

そこで、玉名支部では、「ゆうべに」の生産安定と技術力向上に向けて、10月2日(共販対象)と10月12日(共販外対象)に「ゆうべに講習会」を開催し、併せて約100名の生産者が出席しました。

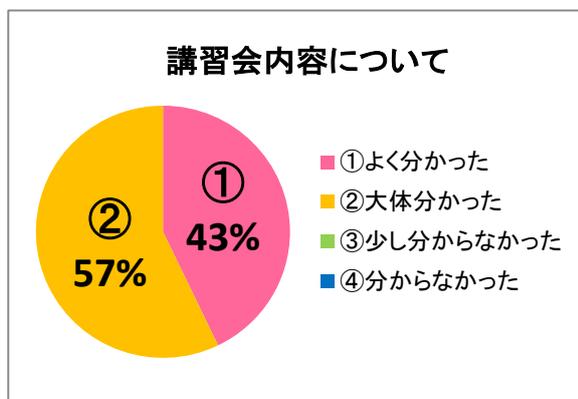
研修会では、アグリシステム総合研究所田尻室長と農業革新支援センター本門専門員を講師に迎え、定植後の基本的な栽培管理や、摘果や摘果房による収量確保対策、カルシウム資材の施用による着色不良果対策など、課題克服のための説明がありました。

総合討議では、生産者から1.5番花の見分け方や簡易的な摘花・摘果の方法などについて質問があり、活発な意見交換の場となりました。講習会の後に実施したアンケート結果から、多くの生産者の理解が深まったと思われます。

玉名支部では、今後も講演会や巡回指導を実施し、関係機関と一体となって玉名地域全体の「ゆうべに」生産技術力の向上に向けた支援を行っていきます。



講習会風景



アンケート結果(抜粋)